

高野新聞

Vol.66



たかの
高野 たけし
無所属 39歳

逗子市議会議員（三期）
・副議長
・教育民生常任委員

高野たけしの活動報告

～住みやすいまちづくりに向けて～

◆逗子市財政の厳しい現状

平成23年度における決算報告が出されましたが、依然厳しい財政状況にあります。特に実質収支比率、財政力指数においてはここ3年間悪化の一途を辿っていることが分かります。（表1）

表1 < 財務比率の推移 >

	実質収支比率	経常収支比率	公債費比率	財政力指数
平成23年度	7.5%	98.9%	9.6%	0.876
平成22年度	7.1%	98.3%	9.7%	0.902
平成21年度	5.1%	99.6%	9.6%	0.937

実質収支比率：標準財政規模に対する割合。
一般的には3～5%が望ましいとされている。
経常収支比率：経常一般財源に対する経常的経費の割合。
一般的には70～80%が望ましいとされている。
公債費比率：経常一般財源に占める公債費の一般財源所要額の比率。
一般的には10%以内が望ましいとされている。
財政力指数：財政上の能力を示す指数。
この指数が1を超えるほど財源に余裕がある。

◆市民税収入の落ち込みが最大の原因

一般会計では自主財源の落ち込みが続いていますが、市税収入の減少が最大の要因となっています。

中でも市民税収入の落ち込みは顕著で、平成19年度に約57億8千万円あった収入が平成23年度には約49億2千万円となっています。（表2）これは、経済状況の悪化に加え、高齢化が進む本市の状況に起因しているものと考えられます。

表2 < 自主財源と市民税の歳入状況 >

	自主財源	構成比	市民税
平成23年度	11,300,654,302	62.6%	4,915,275,058
平成22年度	11,374,500,650	62.4%	5,050,046,474
平成21年度	12,026,074,404	65.9%	5,468,389,981
平成20年度	12,406,320,656	72.6%	5,721,937,955
平成19年度	12,518,664,971	74.0%	5,780,732,115

政治資金の残り あと 70,839円

（7/1～9/30の内訳）

支出…ポスター掲示用両面テープ 1,898円
名刺 3,129円

◆市民一人当たり約27万円

市税収入の落ち込みを補填するかたちで、市債借入額は平成20年度以降大幅に増えてきています。その結果、平成23年度における一般会計歳出額に占める市債借入額は8.42%まで増加してしまっています。（表3）

また、一般会計の市債残高も平成23年度末時点で約158億円となっています。これは市民一人当たり約27万円の借入がある計算になります。

表3 < 一般会計歳出額と市債借入額 >

	一般会計歳出決算額	一般会計の市債借入額	市債割合
平成23年度	17,128,362,921	1,442,900,000	8.42%
平成22年度	17,361,948,427	1,360,100,000	7.83%
平成21年度	17,594,199,468	1,331,500,000	7.57%
平成20年度	16,427,534,095	921,100,000	5.61%
平成19年度	16,047,876,340	989,900,000	6.17%

◆事業評価会議の継続的な実施が必要

本市においては、歳入の増加が当面見込めない現状を考慮して事業内容の見直しを進めていかなない限り財政の健全化が見込めないことは言うまでもありません。

今定例会で行政より提出のあった「平成23年度決算に係る主要な施策の成果報告書」を見ても、すでに目的をある一定達成した事業が継続的に行われているため、予算額と執行結果が著しく乖離しているものも見受けられます。そのため、事業の取捨選択を住民目線で行う事業評価会議の継続的な実施を改めて市長に提起させていただきました。

※逗子市の事業評価会議

私が一般質問等を通じて第三者の目線を取り入れた事業仕分け制度の創設を提案してきた結果、昨年度18歳以上を対象に無作為抽出で選ばれた市民が参加して実施したが、今年度は未実施。評価対象となる事業の絞り込み段階から仕分けまでを市民参加で行う形を採用したのが特徴。

視察報告 ～スマートエネルギーネットワーク～

東京ガス千住テクノステーション内にある「千住スマートエネルギーネットワーク」を視察させていただきました。

ここでは、天然ガスコージェネレーションや再生可能エネルギーなどの分散型エネルギーへの注目が高まる中、これらから発生する熱と電気をエネルギーネットワークと情報通信技術を活用し、建物間や地域間で最適利用するスマートエネルギーネットワークの実証実験が行われています。

太陽光発電パネルをはじめ、ガスエンジンで作った電気、太陽熱集熱器で作った温水を施設内の建物で使用するとともに、熱の使用状況が異なる隣接する特別養護老人ホームとも双方向の熱融通を行っているとのこと。特別養護老人ホームとの双方向の熱融通では13.6%の省エネ結果が出ているとも。

系統電力全体の調整、補完を図るための技術検証を目的に設置された太陽光発電パネルは5メーカー5種類におよび、それぞれ設置角度を変え発電効率もチェックしているそうです。理想の設置角度は30～35度とされているようですが、これを基準とした場合、10度で設置すると95%、90度で設置すると70%にそれぞれ発電効率が落ちるとの検証結果も出ているとのことでした。



また、ここでは燃料電池自動車の実用化に向け、都市ガスから高効率に水素を製造する技術や、車載水素タンクへの水素充填方法の実証実験も行われています。

車両はトヨタの市販車両をベースにしていますが、見た目はガソリン車と区別が付きません。試乗させていただきましたが、加速力が良く、スムーズな乗り心地でした。

この水素と酸素の反応で動かす車は、電気自動車と比べ、①充電スピードが速い、②走行距離が長い、③寒冷地でも動く、というメリットがあるそうです。ただし、現行の法律下では水素ステーションとガソリンスタンドの併設ができないというデメリットも。



← 実験中の燃料電池自動車

水素ステーション→



効率性が高く、環境にも配慮したエネルギーの新たな活用方法が実用化される日を楽しみにしています。

どーなっているの？

市民の皆様からいただいた、ご意見・ご要望にお答えするコーナーです。

Q1.

再来年度から中学校でも導入予定となっているボックスランチ方式のような配食サービスを市内の学童保育にも導入して頂けないでしょうか？

休校日に学童保育へ通所する際にはお弁当を持参しているとのことですが、特に夏場においてはお母さん方も傷みにくい食材を使用したり、調理方法を考えたり、保冷剤を入れるなどして対応しているものの、やはり衛生面で不安があるとのことでした。

現在、市内5つの学童保育には289名の子どもたちが通っていますが、同様の悩みを抱えている親御さんも多いと考え、早速担当所管に検討を要請いたしました。

Q2.

海水浴期間中、海岸へアプローチする通路(134号線の下側のトンネル)内への駐輪が多く、避難路として機能しない恐れもあるため何とかできないでしょうか？

ご意見を伺った後、私も数本ある全ての通路を見に行ってきましたが、特に海岸中央と西側から2本目の通路には多くの自転車やバイクが止められている状態でした。

逗子海岸は134号線側から砂浜に通じる階段が少ないため、多くの人たちは海岸への行き来トンネル通路を利用しています。それは災害が発生してしまった場合においても同様であり、海岸に人が多く集まっている時期、時間帯であれば、避難する人たちの多くがトンネル通路を利用せざるを得ないものと捉える事ができます。

そこで、こうした状況を解消する一つの手段として、新宿会館横の土地開発公社所有地と新宿1丁目地内にある市有地の駐輪場化を担当所管に提案させていただきました。

また合わせて、海岸西側にある県営駐車場を一部市が借り上げた上で、駐輪場として利用することも検討していただきたい旨、お話をさせて頂いたところです。

市政に関するご意見・ご要望等がありましたらお寄せ下さい。



市政クラブ 高野 たけし

Tel / Fax: 046-871-7368 E-mail: takano_zushi@yahoo.co.jp